

2006 年度 小委員会活動成果報告

(2007 年 2 月 15 日作成)

小委員会名	ソフトコンピューティング研究小委員会	主 査 名：丸山能生 就任年月：2005 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	情報システム技術委員会	委員長名：新宮清志
設 置 期 間	2005 年 4 月 ~ 2009 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>【設置目的】</p> <p>本小委員会はコンピュータを応用した新しい計算パラダイムであるソフトコンピューティング(人工知能, ファジィ理論, ニューラルネットワーク, 遺伝的アルゴリズム, 人工生命等)を調査・研究し, その成果を会員や社会に還元することを目的とする。</p> <p>具体的には, ホームページの運営, ソフトコンピューティングに関する情報収集と研究報告, 年 1 回の情報・システム・利用・技術シンポジウムでの研究集会の実施, ソフトコンピューティングに関する書籍の刊行およびそれを利用した講習会またはシンポジウムを行なう。</p> <p>【各年度活動計画】</p> <p>初年度(2005 年度): ホームページの開設 ソフトコンピューティングに関する情報収集・研究報告 情報・システム・利用・技術シンポジウムで研究集会の実施</p> <p>2 年度(2006 年度): ホームページの管理 ソフトコンピューティングに関する情報収集・研究報告 情報・システム・利用・技術シンポジウムで研究集会の実施 書籍刊行のための原稿執筆開始(後半)</p> <p>3 年度(2007 年度): ホームページの管理 ソフトコンピューティングに関する情報収集・研究報告 情報・システム・利用・技術シンポジウムで研究集会の実施 書籍刊行のための原稿執筆, 脱稿</p> <p>4 年度(2008 年度): ホームページの管理 ソフトコンピューティングに関する情報収集・研究報告 情報・システム・利用・技術シンポジウムで研究集会の実施 書籍の刊行及び講習会あるいはシンポジウムの実施</p>	
委員構成 (委員名(所属))	<p>委員公募の有無：有</p> <p>主査：丸山 能生(間組)</p> <p>幹事：鷹 敏和(有明工業高等専門学校) 入江 寿弘(日本大学)(4 月 26 日開催の小委員会で幹事に就任)</p> <p>委員：奥 俊信(大阪大学) 新宮 清志(日本大学) 曾我部 博之(愛知工業大学) 谷 明勲(神戸大学) 堤 和敏(芝浦工業大学) 野口 貴文(東京大学), 橋本 幸博(職業能力開発総合大学校) 平塚 聖敏(日本大学), 本間 俊雄(鹿児島大学) 三橋 平(筑波大学)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)	<p>ソフトコンピューティング実例調査研究WG： 建築・環境・都市・社会に焦点を当て, ソフトコンピューティングの応用事例を収集する。それを体系的・網羅的に整理し, ソフトコンピューティング応用技術ノートを作成する。</p>	

2006 年度予算	230,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://hornet.eme.cst.nihon-u.ac.jp/aij/modules/news/ http://aij.cn.cst.nihon-u.ac.jp/modules/soft6/index.php?id=1
-----------	-----------	---

項 目	自己評価
委員会開催数	7 回（年度内計画を含む）
刊行物 （シンポジウム資料等は 除く）	
講習会	
催し物 （シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等）	<p>1．第 29 回情報・システム・利用・技術シンポジウム小委員会企画研究集会 「感性とデザイン」(感性工学システム研究小委員会，複雑系科学応用小委員会と共催) 参加者数 49 名 『第 29 回情報・システム・利用・技術シンポジウム論文集』所収</p> <p>2．第 28 回ファジィワークショップ 次世代の知的処理へ (日本知能情報ファジィ学会、日本建築学会共催) 『第 28 回ファジィワークショップ講演論文集』</p>
大会研究集会	<p>1．研究協議会「建築・都市の防災・減災を支える情報システム技術」 『情報システム技術部門研究協議会資料：同上』 参加者数 83 名</p>
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 （当初の活動計画と得られた成果との関係）	<p>目標達成度：80%（未達は年度内に書籍の原稿作成に着手できなかったこと。）</p> <p>1．ホームページの開設と運営 2005 年度に日本大学のサーバを借用し，データベース機能を持ったホームページを作成し，2006 年度は運用を行った。また，ホームページ WG に対してデータベース機能を持つホームページの開設を提案した。</p> <p>2．ソフトコンピューティングに関する情報収集・研究報告 WG が中心になってソフトコンピューティング応用技術ノートの作成を進めた。2005 年度に建築・環境・都市・社会の各分野に関係するソフトコンピューティング研究開発応用事例を約 70 件収集した。その内，著作権等の問題のない 54 件を抽出して概要を作成し，ホームページに掲載した。</p> <p>3．研究集会の実施 2006 年 12 月 8 日「感性とデザイン」のテーマで研究集会を感性工学システム研究小委員会（主催），複雑系科学応用小委員会と共催した。</p> <p>4．シンポジウムの開催 研究報告の一環として日本知能情報ファジィ学会と共同でシンポジウムを開催する（2007 年 3 月 9-10 日，首都大学東京南大沢キャンパス）。建築学会から 7 件（全 25 件）発表予定。</p> <p>5．書籍の刊行 ソフトコンピューティング応用技術ノートを基にして，書籍の目次案を作成した。今後執筆者を決定し，原稿作成を進める。</p>
委員会活動の問題点・課題	<p>・書籍の刊行について 4 年度中に書籍を刊行するために，原稿執筆を早急に開始する必要がある。</p>
その他	